

# 兵庫県保険医協会

## 但馬支部ニュース

No. 108

2009年1月25日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部  
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑1 2 6  
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008



新年のごあいさつ

### 住民を含む全国民の協力が無いと 現在の医療危機は救えない

支部長 新田 誠

昨年から、大不況の嵐が全世界に吹き荒れている。企業の倒産や経営不振が深刻化し、大量の失業者が巷に溢れている。

医療危機は更に深刻になり、病院の医師不足と財政困難だけでなく、診療所の看護師不足と赤字経営も進行し医療の機能を崩壊させつつある。患者にとっても、医療費の窓口負担が増えるだけでなく更に、健康保険税や介護保険料が急増している。

昨年四月からは、七十五歳以上の高齢者は、「後期高齢者医療制度」に強制的に一纏めにされてしまった。この制度は政府の財政支出を減らすことだけを目的に創設されたもので、全ての高齢者から保険料を徴収し、高齢者の医療費窓口負担も増えるという「老人は早く死ね」と言わんばかりの悪法だと国民から猛反対され

ている。

全国的に夜間・休日の小児急病に対応できる医療機関が減少して問題になっているが、但馬では、開業医が、医師不足の病院を支援する体制ができ、病診連携の絆がこれまで以上に強くなった。

現在の医療危機の難問を解決するためには、行政と医療関係者だけで相談していたのでは不十分で、住民を含む幅広い人々の協力が必要であることが、今では世間一般の常識として認識されつつある。

保険医協会但馬支部では、昨年一昨年も支部総会記念行事として、公立病院や看護師協会但馬支部と協力して「医療危機問題」を取り上げたが、今年も各界の幅広い人々と力を合わせて行動を推し進める事が大切である。

～夜遅い時間帯ですが、先生方のご参加お待ちしております～

### 第69回胸部X・P読影と紹介症例検討会

日 時 3月26日(木) 午後7時～ 会 場 公立八鹿病院 2階研修ルーム  
アドバイザー 公立八鹿病院 片山 覚 先生 他 (軽食あり、参加費 100円)

## 但馬の息吹

### 福井寿徳先生（養父市大谷） を支部幹事 藤井先生が訪問



「プライマリケアを重視したい」と  
福井先生

養父市大谷（旧関宮町）で養父市国民健康保険大谷診療所の所長を務められています、福井寿徳（ふくいひさのり）先生を、支部幹事の藤井先生が訪問しました。

#### 地元に戻られるまで

福井先生は、関西医科大学を1993年にご卒業。その後、救急医療を専門に勤務医として6年間大学に残られ、その後大阪の病院で内科医としてご勤務されていました。勤務医時代を振り返り、「専門の内科に関わらず、外科・整形外科など幅広く患者さんを診ていた」そうです。多くの患者さんを診ていくなかで、初期診断の重要性を痛感されたそうです。

勤務医として11年目を迎えた2002年に、現在の診療所の同場所で開業されていた、清田茂俊先生（清田医院）がお亡くなり、この地域の医療が空白

になることを危惧した地域住民の要請もあり、故清田先生の後を引き継ぐ形で、2003年3月にご祖父様の代から開業されている地元に戻られたそうです。

#### 但馬の医療に携わるなかで感じること

但馬の限られた医療資源の中で、病診・診診の連携は地域医療を守るうえで特に重要とされ、「八鹿病院との連携を中心に病診・診診の連携は上手くいっているし、非常に助かっています」とおっしゃいます。しかし、最近は医師不足による集約化により、夜間の小児救急などは北但の豊岡病院に送らざるをえない状況も生まれており、「今後小児科だけでなく、一般内科にも波及していくのでは」と危惧されておられています。

スタッフは、看護師3人と事務員1人の4人。「スタッフの数はぎりぎりの状況。何とかしのいでます」と先生。月末月初の請求時期には、スタッフと一緒にレセプトチェックもされておられます。

但馬の医療問題では、「医師の確保が一番の課題」と指摘されました。病院の数はもちろん、診療所の数も少ない但馬地域において、病院・診療所ともに地域医療に果たす役割は大きく、診療所が一つでもなくなると、その地域は空白になってしまいます。「診療所・病院ともにもっと増やさないといけない」と強調されました。

但馬地域の深刻な医師不足対策として、兵庫県の指導で進められている医師の集約化について、「中小病院が機能縮小していくなか、基幹病院への集約化だけではひずみがおきます。結局、病院も診療所も疲弊し、地域医療が崩壊しかねません」「行政に対してもっと働きかけが必要だと思います」と指摘されました。



幹事の藤井先生が訪問

（2面からつづく）

### 診療報酬等医療保険制度で改善してほしいこと

いまの診療報酬体系について、「まじめに診療に取り組んでいる医療機関の経営が成り立つ診療報酬体系にして欲しいですね」と先生。特に、レセプトオンライン義務化の問題では、「多くの先生方は、患者さんのために日々尽力されています。診療報酬も引き下げられ、厳しい経営状況のなか、新たな設備投資をしてまでオンライン化する必要性は感じられません」と指摘されました。



地域医療にかける思いを語られた

日本の社会保障全般について、「昔から国のやり方を見ていると、本当に人を大事にしない国だと思います。国は、医師を1人育てるのにも、多くのコストをかけています。国は、大事に育て上げた医師をなぜもっと大事にしないのでしょうか？もっと医療や教育に力を注ぐべきです。一昨年、子どもが生まれて特に感じています」と強調されました。

また、最近の医療問題でのマスコミ報道について、「最近の『患者のたらい回し』の問題でもあるように、医療現場の実態を踏まえた報道がなされていません。深刻な医師不足が続くなか、医療現場では受け入れたくても受け入れられない状況です。私も救急医療の経験から、断らざるを得ない状況があることは事実です。このような報道が続くと現場の医師はやりきれません」とのご意見いただきました。

### 患者住民との関係について

大阪での勤務医時代は、救急医療に携われておられたこともあり、患者さんとのコミュニケーションを深める機会が少なかったそうです。但馬に戻ってからは、患者さんとも家族ぐるみで付き合うことが多くなり、「祖父・父の代からこの地で開業しているので、幼少時代から私のことをよくご存知の患者さんもいらっしゃいます。患者さんとは、お互いに打ち解けながら信頼関係を築いています」「地域全体で支えてもらっているのは有り難いです」と微笑まれました。

### 診療のモットーなど

都心部と違い、但馬では専門外の疾患を診られることも少なくないようです。「地域医療をもっと充実させたいです。まず、自分の目で初期診療をしっかり行うことを重視しています」と今後の抱負を語られました。

### さいごに

協会に対して、「『胸部X-P読影と紹介症例検討会』は、読影力の向上や病診連携などで役立っています。点数の問い合わせなどでもお世話になっています」「医師が医療に専念できる環境整備が必要です。行政に対して、医療現場の切実な声として、署名活動など通じて声を上げていくことが重要だと思います」とのご意見を頂きました。

今後ますます地域医療への強い意欲をお持ちのご様子の福井先生でした。

## 診療報酬オンライン請求義務化 問題で厚労省に要請行動

協会は昨年末に、レセプトオンライン義務化反対の院長署名1,116名分を厚労省に提出し、オンライン義務化撤回を要請。厚労省の担当者は、「全員にレセコンの導入を求めているわけではない」とし、3師会による代行請求で対応は可能、医師会非会員の場合も、3師会で対応してもらおうなどとした。

院長署名のうち、意見欄に記入のあるものは、地元議員要請行動で写しを渡し理解を求めた。

以下、地元会員から寄せられた声を紹介する。



厚労省に署名を提出した

### 地元会員から寄せられた声

・現場の状況を把握せず、十分な議論のなき「見切り発車」は断固反対！！

（豊岡市・医師）

・但馬地区は医療過疎地で、オンライン請求に伴う廃業が出ると、ますます医療サービスを受けられなくなる患者様が増加するうえ、医師不足の問題から医療の質も低下すると考えられる。医療崩壊の進む地域医療を守って欲しい。（日高町・医師）

・医療こそアナログが大切です。「人から人」これが医療の基本です。デジタル化してよい分野としてはいけない分野を明確に分けていただきたいと思います。

（豊岡市・医師）

・オンライン化に伴う超高額な私費の投入、頻発する情報流出に関する犯罪の深刻化とその管理責任の所在等、問題山積の現状でのオンライン化は絶対反対です。（豊岡市・医師）

・へき地には、多くの深い経験をつまれた高齢の先生ががんばって下さっています。結局は、患者さんがますます行き場を失ってしまうと思います。現実を考慮し、オンライン請求の義務化撤回を要望します。（朝来市・医師）

・開業医をやめてしまうことになる医師が12.2%もいるのであれば、そのような医師が続けて働けることを考えるべきだと思う。過疎地では人口も少ないが、医師不足はさらにひどい状態であるので、一人一人の医師が背負っている重みは都会とは全く異なったものとする。一人の医師がやめざるを得なくなった場合は、市民に跳ね返ってくると思う。（朝来市・医師）

### 「届出医療の活用と留意点 —施設基準・人員基準の手引き」

B 5判 900ページ 2008～2009年度版  
定価5,000円(送料込)



施設基準の届出の留意点をわかりやすく解説/届出にあたっての必要な計算式、適時調査の指摘事項、立入検査要綱を掲載/入院外・入院・入院時食事療養の届出について必要書類等をそれぞれ掲載。

### 「在宅医療点数の手引

—診療報酬と介護報酬」

B 5判 570ページ 2008年度改定版  
会員特価2,000円(送料別)



在宅医療点数に関わる対象患者や算定要件などを図表やフローチャートなどでわかりやすく解説。レセプト請求事例も多数掲載。

ご注文は、☎078-393-1803 研究部まで